

# 野洲市水道事業ビジョン【概要版】

## 1. 水道事業ビジョンの策定

(1) 目的  
平成25年3月に厚生労働省が策定した「新水道ビジョン」に示された「安全」「強靱」「持続」の観点から水道事業者が目指すべき取り組みの方向性、実現方策、理想像を実現するため、また、安全で良質な水道水を将来にわたって安定して供給し続けるため、「野洲市水道事業ビジョン」を策定し、今後の水道事業の中長期的な方向性を確立し、これを達成するための道程を示すものとする。

(2) 位置付け  
「野洲市水道事業ビジョン」は、厚生労働省により策定された「新水道ビジョン」に基づき、本市の水道事業を将来にわたって健全に運営するための基本となる計画として策定した。  
3つの観点として安全・強靱・持続を示して、「時代や環境の変化に対する的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道」を水道の理想像に掲げている。

(3) 計画期間  
令和4年度から令和13年度

## 2. 現状と課題

業務指標（P1）の主な項目

(1) 安全面に関する業務指標による比較

番号	業務指標名	指標値（H30年度）			望ましい方向
		野洲市	全国平均	類似事業者平均	
A301	水源の水質事故件数（件）	0	0	0	↓
A401	鉛製給水管率（%）	0.0	0.0	0.0	↓

※番号：水道事業ガイドラインで定められている番号  
※望ましい方向：↑高いほど良い ↓低いほど良い -いずれでもない

(2) 強靱面に関する業務指標による比較

番号	業務指標名	指標値（H30年度）			望ましい方向
		野洲市	全国平均	類似事業者平均	
B503	法定耐用年数超過管路率（%）	11.5	13.5	13.9	↓
B602	浄水施設の耐震化率（%）	49.2	*1 30.6	14.0	↑
B605	管路の耐震管率（%）	4.4	9.6	10.3	↑
B606	基幹管路*2の耐震管率（%）	50.0	17.4	18.1	↑
B606-2	基幹管路の耐震適合率（%）	83.3	32.1	33.0	↑

※1 平成30年度末における浄水施設の耐震化率全国平均値（厚生労働省HPより）

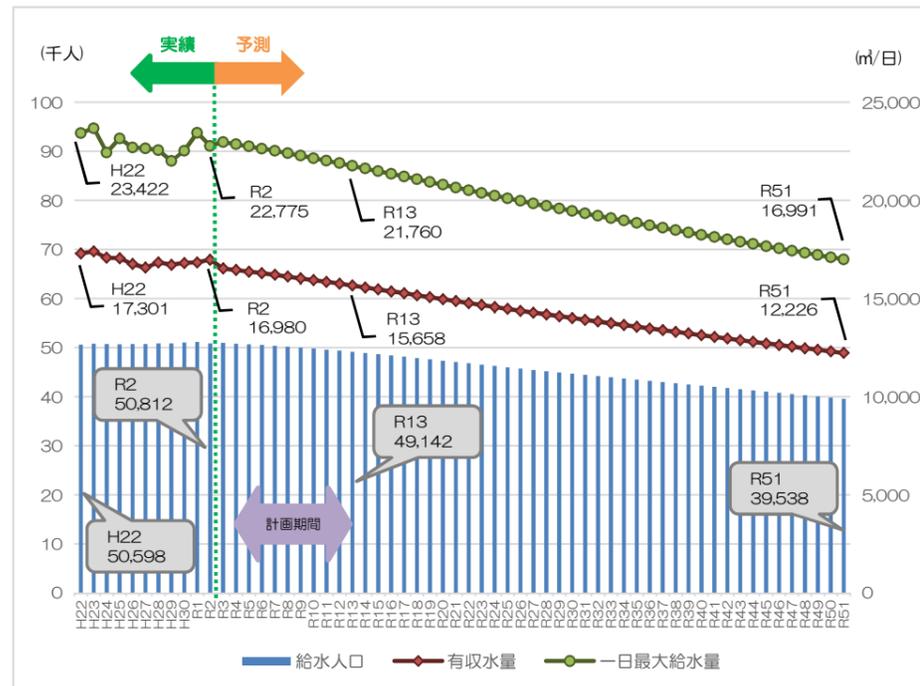
※2 基幹管路：導水管および送水管

(3) 持続面に関する業務指標による比較

番号	業務指標名	指標値（H30年度）			望ましい方向
		野洲市	全国平均	類似事業者平均	
B104	施設利用率（%）	88.7	59.6	62.8	↑
B112	有収率（%）	82.8	86.0	87.6	↑
B504	管路更新率（%）	1.6	0.46	0.54	↑
C102	経常収支比率（%）	118.7	110.6	111.3	↑
C113	料金回収率（%）	118.4	103.5	105.1	↑

## 3. 将来の事業環境の予測

(1) 給水人口と水需要の見通し



(2) 施設の老朽化等の対策

① 管路耐震化・更新計画

管体強度の弱い石綿管や法定耐用年数40年を経過した硬質塩化ビニル管は、他の管種に比べて漏水事故の危険性が高いため、優先順位を付けて計画的に更新していく必要がある。また、今後発生が予想される大規模地震に備え、基幹管路及び重要給水施設管路（防災拠点への管路）の耐震化を図っていく必要がある。

② 施設更新計画

平成27年度に実施した「野洲市水道事業アセットマネジメント策定業務委託」において、水道施設の更新基準を法定耐用年数の1.5倍（目標耐用年数）に設定している。  
三上水源地、比江水源地、井口水源地は、機械・電気設備の多くが目標耐用年数を経過しているため、計画的に更新を行っていく必要がある。また、三上配水池、田中山高区配水池は、機械・電気設備の更新に加え、災害時の対策として緊急遮断弁を設置する必要がある。

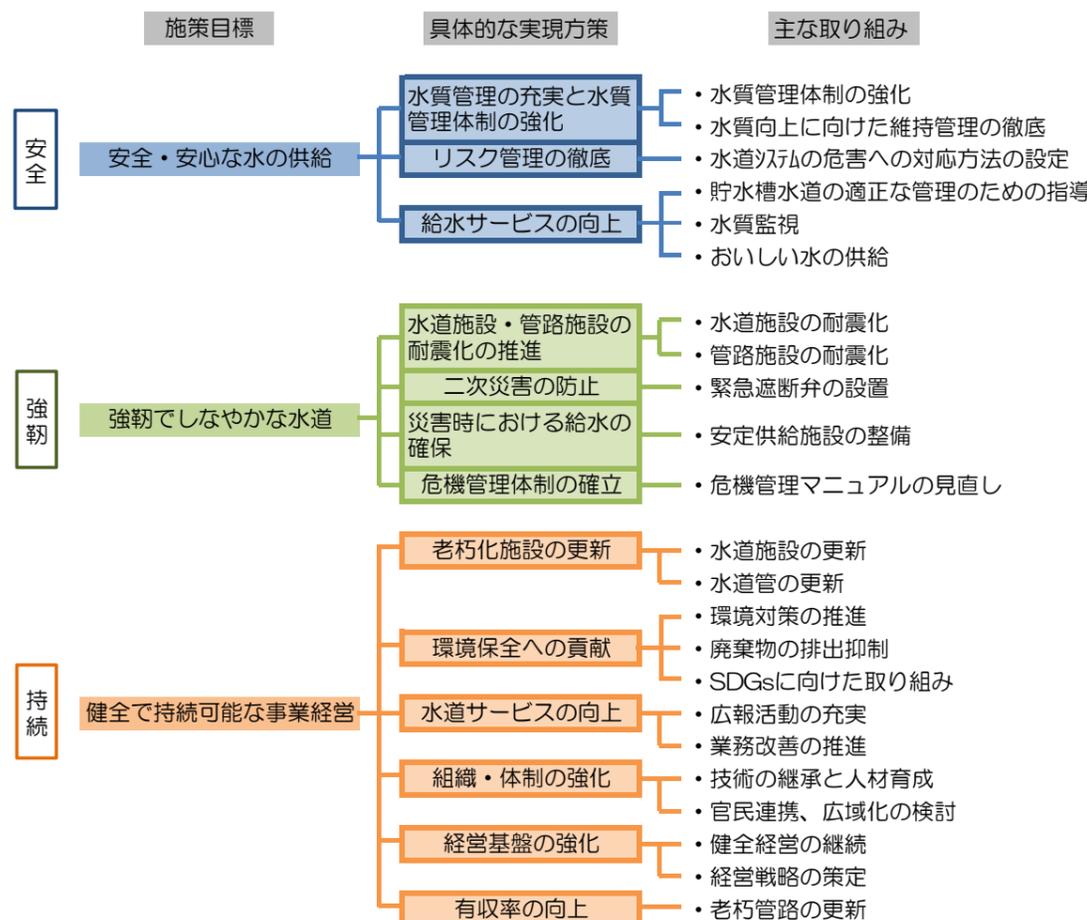
(3) 資金計画、収支計画

収益的収支の資金不足を解消し長期的に健全な経営を行うためには、企業債比率・ダウンサイジングの検討等の支出削減策、適正な料金水準の検討等の収入増加策、官民連携・広域化の検討等の業務の効率化等の取り組みが必要になる。

(4) 職員数の減少

今後、市職員や給水人口の減少が見込まれることから、水道関連業務の従事者である職員数も減少が見込まれるが、安全・安心で良質な水道水を提供し続けるために、組織内の技術の継承や人材育成に取り組んでいくことが重要になる。

## 4. 水道事業の目指すべき将来像と実現のための施策



## 5. フォローアップ

計画期間（令和4年度～13年度）において、計画の策定（Plan）→施策の実施（Do）→達成状況の確認・検証（Check）→改善策の検討（Action）のPDCAマネジメントサイクルにより、計画の見直しを行う。  
目標の達成状況を把握し、事業成果の検証を行うとともに、改善の必要な事業を見直ししながら、計画の進捗を管理し、ビジョンの実現を推進する。

